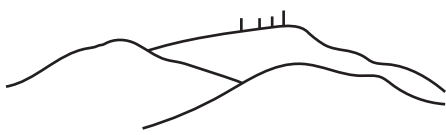


Youth Manna

2021/3/15 - 3/21



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/3/15(月)

アモス 4 章

サマリヤの人々の悪い行いと(1-3)、当時のイスラエルにあった形だけの自己中心な礼拝(4-5)を神様は厳しく指摘しています。一見、やりすぎなくらい熱心に礼拝しているようでも、その心は神様から遠く離れていたんだ。

悔い改めないイスラエルに、神様はたびたび災害を送られましたが、それでも彼らは悔い改めて神様のもとに帰らなかったんだね(6-11)。何度も繰り返される「わたしのもとに帰って来なかった」という神様のことばに、背くイスラエルをあきらめず見捨てない神様の愛を感じるだろうか。

12節「神に会う備え」をすることは、具体的に何を意味しているだろうか？もし神様と距離を感じるところがあったら、それは何が原因だろうか？今朝、神様の前に進み出て、祈って一日を始めよう！

2021/3/16(火)

アモス 5:1-15

神様に背いて離れたイスラエルを待っているのは、厳しい裁きの現実でした(1-3)。そのイスラエルに神様は「わたしを求めて生きよ」と呼びかけられているね。それは神様以外のものを神として求めないことを意味しているよ。神様以外のものを頼りにしていたり、安心を得ようとしているものは、私たちの内側にないだろうか？

10節以降を読むと、「主を求める」ことは、それにふさわしく実際に「生きる」ことでもあることなんだと分かるね。ただ宗教的な人になるのではなく、真にイエス様につながる人となろう！

「主を求めて生きる」とは、具体的にどのように生きることか考えよう！イエス様がしたように、私たちもしよう！今日、私たちの周りの人たちに愛を表そう！！

2021/3/17(水)

アモス 5:16-27

回復への道が示され、期待した(15)のも束の間、イスラエルに対するさばきは避けられないことが告げられる(16-17)。「それゆえ」は、彼らが回復への道を拒否したことを意味している。また、イスラエルは「主の日」を待ち望んでいたが、彼らが主に背いたので、それは闇の日となる(18-20)と告げられた。さらに、彼らは主に礼拝を捧げていたが、心が主から遠く離れていたため、主はその礼拝を忌み嫌われた(21-27)。

彼らはモーセの律法に規定された通りの礼拝を行っていたが、主はそれらを忌み嫌われた。礼拝するとき、自分の心は主に向かっているか注意しよう。

2021/3/18(木)

アモス 6 章

繁栄は悪いことではない。ただ、それが神様によるものでなければ妨げやおごりになることがある。

ユダとイスラエルの両王国の人々は得た富と軍事力に頼りきって、それを誇りとし、自分たちに栄光を返していた。だから11節以降で、侵略による敗北が宣言される。

神様による正しさ、神様による目的をもって生きることが出来ているだろうか？神様によらなければ何の意味もない。心に留めよう！

ミュージックの日 2021/3/19(金)

アモス 7 章

▶アモスはまず2つのさばきに関する幻を見た。そのさばきは、1つの国が滅びるほど大きなものだった。アモスは必死にとりなしの祈りをした。すると主は思い直された。

▶この時のアモスと同じように。十字架で死なれ、復活したイエスが私たちのためにとりなしてくださっている。どんなに感謝なことだろう！(ローマ 8:34)

▶次にアモスは下げ振りの幻を見た。下げ振りとは、建物が水平かどうかを確かめる道具だ。これを使うと、ちゃんと建っているように見える建物でも、ズレがあるかどうかははっきりわかる。主はイスラエルの民が、本当に主を向いて生きているかを確かめる。

▶主の前では隠されているところもはっきりと示される。ヘブル 4:7 を読み、主があなたに語られることに耳を傾けよう。

2021/3/20(土)

アモス 8 章

神様はアモスに夏の果物の幻を見せた。それはイスラエルの終わりを意味していたね。果物のように豊かに見えるイスラエルだけど、そこには弱い者を苦しめ嘘や悪意で満ちていたんだ。

神様を礼拝し、従うことに耳をふさいできたイスラエルに、「神のことばを聞くこと」の飢饉がやってくる。どんなに助けを求めて聴こうと思っても分からない、そんな罪の結果を人々は味わうことになってしまった。

私たちは神様のことばを求め、従っているかな？聞けない時や、従えない時はどんな時かな？

仲間と分かち合い、祈り合おう！

2021/3/21(日)

アモス 9 章

神様は悔い改めないイスラエルに、彼らが他の罪深い国々と本来、何も変わらないことを思い起こさせます。

イスラエルが神の選びにあずかったのは、神ご自身の主権と恵みによることでしたが、その主権者なる方のことばを退け、神様に背いたことによってほかの国と同様に根絶やしにすると告げられます。

しかし、そのようなイスラエルの中にあっても、みことばに応答し主を求めて生きる者は残され、最後には神の恵みによる回復と永遠の繁栄が語られます。

私たちが贖われ救われたのは、ただ一方的な神様の恵みによるものです。その私たちが選ぶのは神様を求めて、みことばに応答する生き方でしょうか。それとも神様のことばを退け、自分の好き勝手にする生き方でしょうか。みことばを思いめぐらし、今日自分が何を選び取るのか、神様に祈ろう。